

820-1

濟

俳諧資料カード

年代

文政庚辰

編者
(筆者)

書名

いせ集

備考

(下垣内蔵)



晋平勝考

おおききとを栗はりて其種乃おひとらん
 かしこひとみとらうのあさてあまの時らん
 朝長は短奇すおろすむさう下お切すあまは
 山雅のつらうんと西行上人の山家を尊え
 男が不熟しとまゆ心を極するやありは統とそ
 々々ふやとたあまのたまよくなま世の人
 けぬ五尺とくはけつありし不けと
 染すをまう乳 伊賀之玉はつものむつり
 茂手をとる影しありとふとあまの
 影しとあまの影しとふとあまの影しと
 文政とあまの影しと

東京市阿賀北五丁目三十三番八号
 下垣内和人
 電話〇六三三二七九八五番
 〒737

ちれハ咲き成つらん
 替りぬ 月居
 梅もさひすそのちハ
 うめさうり也 素葉
 後あつて、春風流に
 花さす力 学望
 志又をきえん
 人少山後知 翰友
 予あましく書け
 片々く改稿を 季成



おの中人退ふ 九歌
 梅や退ふ人
 引のゝ家松や 芦刈
 子の日おひく春も
 蒼いしぬ 蟻洞
 菰水お中のまらぬ
 あまうまてあま
 おもハぬさうり也 仲森
 戸あくるそ波も
 せもてうさたき
 星備



海にゆるあや 侍中
とりにく 梅屋の 晋和

田よつれ八洲 大和
くりにく 柳引れ 落首

山中や極道人 九段
又二愛ふたり 三秀

くめりくや 袋を
あめりきりあ

竹に際 篠吹
あすろくき春は 吹れり松林

山甲や垣の ちまも
たもく老の ちまも 雄

たもく老の ちまも 雄



立春

疾ふあつとりのふくち 虎毛 山もか 和舟 不任

ちまもりいとらんや 破家の 青葉 今井 巴人

救寺や 疾ふちめく 水も言 童子

若水

あまのや 采と ちまも 星の 薙鳩

万歳

一カや 旭ノ むうの 采袋 一校

きののこ ちまも ちまも 山陰 和舟 竹雄

藪入

羨入や萩の畑のあきつて萩 イミミ 刈鯉
やふりりのせ波ふきり山落衣 赤尾ワ 春喬

小松引

手は流ふ山水をきく小松引 後松山 文和

糸

人の木のやうはちりけお糸 梅と社 本冬

萩くハ流のまわりの押秀 おのま 朗光

柳とよき者や旭のきく連り 後ミツ山 芥和

夕う月の本糸ふ流る川川 カガ 不佳

とさうくこのまきく有あめの柳が

昔実さよちくく聖修の柳が 不佳

舟と目のあき宿柳 よ風やぬ 此漣

流のきくしや柳のくち福り 玉菱

あふ足の服はるろく の柳が 一枝

霞

むのさく木をまきんはるあつり 和合井 薩也

鏡人のまゆ 足もかきとる 春喬

まほりとうち かみとみし 赤鹿 朗光

服よ月成おく や 赤鹿のまの上 芥和

今く越て あくと 日の忌も 赤鹿 難安

人成るより急中急なる急の急

巴人

残雪

菟うけやうるるさう遊てあはる

誰歩

ささとうや梅さきあうしめる雪

淵鯉

河原

舟吹や言よりその河原

は漣

猫意

井の中の月おぼろし猫の意

楊子 蒼夕

梅の戸の表沈みぬる猫の意

竹雄

元日

元日やちのしとるくすめより 河分 盃 流

かんよりし元日のあきさうりし 全

元日も雪はくちうちうち 松山 春 松

門松

門中の旗ひたさふ 中 全

さるのあきさねくも 中 晋 和

着氷

さるのあきさねくも 中 太 拍

さるのあきさねくも 中 竹 雄

年男

新のりや香の初まのこ宵 豊 柏

初夏

たつやつこしさをたわもまふ 菊 友

冬追

もむひ乃まゆにさつて疾りり 三 香向

冬追の夜もふ梅の千ね子り 竟 子

春御

ふとあろしはのまひり 本のるり 今イ鼎 菴

さるひもそつてまやり春御り 市 鹿 村

初日

つとろくそ越にけりり 初日り 初 子 玉

山はとや雪のふなる初り 初り 八 雲

雪あつとつ初日のふたり 初り 鹿

梅

梅もあに春徳けりり 初り 祇 白

梅さそや露にうり 山乃 君 竹

大登やまくりけりり 月乃 不 良

版らつと梅けりり 春乃 我 艾

追伴乃まり 梅乃 市 門 誇 丈

志のこゝろをあらはぬ萩の萩の月 淡志文 吞舌

咲かしたさく萩に萩のちる月をふ 可辻 我史

萩のちる月をふ 吉野山 里松

すくちる月をふにつく萩のちる月 吉野山 秀草

柳

とせはるの萩にうこく柳のうを申 文門

啼るる者か次柳の色ふりり 志文 越江

萩の柳乃門と 多の る系

大ををかさうに 多の 郎光

百負

白うね乃 河島園 土井芳

七采

のちあに 右田 化待

のちあに 右田 化待

若子

つる竹 三采

つる竹 三采

山笑

さうか 土井芳

雪

昔とて我かゝるを 中乃竹島 光妻

るんじきや 系に似る山竹と藤水 鼎毫

昔も 月小し 今も 家より 竹水 祇白

昔もとねし 海に 竹水 祇白

木の免

田の人ををの 妙如とる きのの女 松山 柳水

三ついふく 木の芽も 峰 竹水の 晋和

すめ子 海に 竹水の 竹水の 八景

物

昔も 竹水の 竹水の 竹水の 今井を 竹

雪指

山竹の 竹水の 竹水の 祇白

昔 竹水の 竹水の 竹水の 幽松

昔 竹水の 竹水の 竹水の 鼎蒼

余

山竹乃 竹水の 竹水の 全

一 竹水の 竹水の 竹水の 晋和

二 竹水の 竹水の 竹水の 守州

三 竹水の 竹水の 竹水の 晋和

四 竹水の 竹水の 竹水の 全

山はと八木の月夜を穿るる如
く影にひとりんをえて時の夢
うらたの事なき千巻る竹影如

松ノ花

つがきう猶夜にきて木の華

まな納の馬帽よふく心てねりて

径の口や古めくくもつらのなれ

世にづれて山まゝくぬくく松の花

新山やとて旋すくを歩つる母

日あつりのやうてくをわく松花也

太松

共友

幽松

祇白

全

曾和

全

升雄

太松

賞

くくひまの洞方ひくききのあり記

ききのくげくきくく小川うな

くくひすくくおくくも長くし

くくくのくくを木のあひし

くくくひまのくくをくくくく

くくくひすくくはあれハ作さる

くくくひすくくあふくく木系

くくくくくく木くくのひく

吉

護山

山霞

護山

白鷺

松山

山霞

雀山

静月

長宋

はらばらひららららぬ磯らら
可村

のららららあやうすなみのいひまの
玉蕨

ちまもさへらららあはらららるる
護山

のららららあはららららららららら
静月

二月

つらららら本のあらららら二月二日
玉蕨

ふらららららららららら二月三日
山霞

二月やすららららららららららら
栢亭

あらららららららららららららら
静月

中川風のあはららららららららら
山霞

あはららららららららららららら
二鳥

初午

らららららららららららららら
白鷺

帰一

あはららららららららららららら
五琴

あはららららららららららららら
蟹托

あはららららららららららららら
福丸

藪入

あはららららららららららららら
眉岳

畑打

白くし子打てとけいすの細

雀三

とくさうやばらうまうとく夕日影

此連

もてあふすまはり子や知ち

二鳥

し逢ふそれも知し男分

福丸

初極

雨空まひる白かきしおき

五琴

と川橋あまむ山り多け

桔柳

あけらのや神さうまてひきめ

静月

几巾

いとあふといしむさわにゆ

イタミ如 英

二日参 彼岸

二日参り岩も差違のころひくれ

竹産

番人くまひ見持あるふぐんうま

霞村

たせまきまき毒とく人な彼岸参

春高

暖 帰厂

あつてくれりしとまり細の本

ト之

あつてくれりしとまり細の本

此連

あつてくれりしとまり細の本

梅莊

あつてくれりしとまり細の本

志也

あつてくれりしとまり細の本

此連

あつてくれりしとまり細の本

此連

海より北東もあはまといり之

霞村

片く字ハ雨とく片一丁の海を色

一枝

いおおるれ一丁一葉萩の丁

佐三頂

雪頂

小川姓ふきあすはらう丁

不任

屯のちる日女似てきし海を

馬系

聖六ハやく小田の初とてうとて

一枝

橋本 若44

花よりつれなるもあまふ

不住

橋本すううううまはすカウレ

兀鳥

五中やふり留まると山の象

池尻仕候

あまのふもとくまふあふり

馬系

あゆふ古き山はうりり

志也

雲雀 嘘

まよふ花はあまふあふり

雪頂

山水と心あまふあふり

太柏

鶴白くあまふあふり

花醉

夕飯よあまふあふり

北漣

月の節あまふあふり

竹雄

流の萩ハ潮あまふあふり

卜之

睦くあまふあふり

吐山

陸よりやすき田より一月おや 栲 栲

栲の冬田より夏田よりとつ陸 下市 孤洲

松ゆててもそやや夕陸 フミ 鳥六

夜ふたえー居よそはしてち陸 薩雲

釣ひて漁りやとつ陸

業茶 畑赤

ふのむや夕むりつら碓の波 干玉

糸のむや筑ふかりし居月夜 薩雲

友のむや人うしそや影かく夜 護山

畑赤よりた七あり畑のそく 鳥六

初午

初午やアとや ノ 其 雲

初午や栲よりよ赤乃一 今井 吳 友

ちつ年の親すちら初 甘 虎 杖

初午や人出さうれ 岡 谷

横月

乃しと出さう 則 五

身のかや 八 峯

横月と 作 里 翠

二 鼎 菴

さき遊風 敷とハさりりり 猗月 守州
まをまよふ 露の 啼くをみろ原 作 雄

彼方

つきたらましくまうにまほひんか 吳 友

葉のうまい知んのか色人うまもる 全

ゆりて飛より人もいんう車 芝 雲

知ふの心をもいまぬ 彼岸の 昨 園

ねにちには響く衣もいんう舟 聖上長 友 蓮

ま下

まのへら〜〜〜らに〜〜〜り 作お山 奈 人

あつしや下もつ〜〜〜月 鼎 庵

あつしや〜〜〜日のあつしや〜〜〜下 作 雄

あつしや〜〜〜まを〜〜〜ら〜〜〜下 飯山 南 意

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 香 和

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 全 百々 春

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 全 芦 川

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 全 詩 夫

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 市 真 子

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 六

あつしや〜〜〜あま〜〜〜ら〜〜〜下 六

雀の子

春風はくさくさの音なり 雀の子 ヒナ 蒼波
花のよなきや 二葉の羽根乃子 兵友
肉をとりや 穀をたたくる花の子 ハナノコ 雀子 徑

詞

うげうげや 牛に糸巻入る糸巻音 兵友

祝

山をくぐる門をくぐる音 辰村

糸巻音や くらみの音の響く 彦 池

涅槃會

志門の人の人を曇の相をん我 桑ッ 其正

ありの音を佛も死てこもよなり 一枝

福をんまや 庵まくもる庵の音 翰友

垣の音なりまはる音 ねんが 賢孝

後月

そちから 籠まき 不ふと月 雜歩

不ふとの負つて出たりやお月うらと 丹山 五陵

流臺よその姿はる かわら月 栞式

春風

春風吹かりくしり青 菊明
そのまをひ 結人よそひ 雲の風 杜 藁

椿

幾ぞ見ふれつくさく椿 雪 齡

かゝうさ 織布は日さす 五 陵

人もさぬ小あよ見るや 赤 椿 吹 布

菽の秋の雲をさあや 万 友

雲ハさる地よあつつくや 白 椿 雪 齡

凡中

ふくれきて凡中も 素 麻

雛子

世よあれを雛子もきりし 素 麻

このをさきて 雛の色 雛 姿

雛の外 麻もあり 如 藁

乙子

春ありくおもふ 乙子 乙 子

蝶

てふ花や有ぬ 古 川

人訓るおと 費 孝

てふ花や 古 川

てやしやぬりてやまきよきまてもころ
きくつ片くまやあぬのまのそよ

一枝
賢孝

焼野

不ーりはしるや焼野よりつつき

古川

もちよきまもあーう小焼野が

河原田

雪丸

ゆきまのまを焼野の夕うし守

一枝

長栄

のまき枝一星をつく香ハ考ぬ

賢孝

長栄さやあーる田原も氷の河ら

古川

三月 雛 蛤

旭さ吹世ら三月のまろけさ

此儂

三月や虫やうしとするユウ

吐山

三月のぬけさや人はあろあろは

芥和

深山亦や弥生も人のまもあ吹

此儂

まろ雛やまおぬり

吐山

雛のまよまてしとまこれま雀うれ

芥和

地のまろく音やし雲のゆ

凡鳥

まゆくのまよ通ひらり疎の雨

イタミ

呉秀

ありつきて地まろやぬの音

吐山

地ハ賣しすふふちちる暖し

孤洲

桃 順峯

土うりよ出るとる花なり 桃の若

鳥六

菽寺や思つけられて緋桃さく

雑歩

人の糸のほろぬ月おやそよの巻

一枝

昔つし袖ひ埒やもくのそな

、

ふきむれてけりや度既も枕の花

、

思ふ月よ隠れぬ枕の糸カ衣

吳秀

峯入や浮世を捨る山もたう

不佳

ちくくしと昔をふんすや眠の夢

文和

春水 鳥巢 茶拈

唇月を水田よりそよまの小野

孤洲

まの糸雨のあつみ流れたり

此漣

爽の水すむせハ雀りふりしり

九と改 万利

るの鳥巣まわろうすそよおのぬ

三ツ丸

るの鳥巣やあししの中よおのす

一枝

味晴出すすつりのあや花の巢

、

るの鳥巣よ百も 意の月友が

霞村

鶉のくもやまのつきの葉つし山

賢孝

水よ目を走るとやと葉つしそよの傍

、

ついでに 春

白ついでにくれはつぐや兔の毛

詩夫

あそひ言ひけれの表はうりたり

賛孝

猿よあれハ表の切のも眼より人の

万利

けりありよ志するも表ゆく芥田が

馬宗

けり表やまうくれするまうけれ

三喬

けり表をあふししるの表のより

霞村

けり表や苔よとくれまき柱

棹舟

けり表をかハ松の思りくれ

卷醉

鳥の人も待人もなり表の言

卷醉

浮生

山に位む工をも物もやとんる

則也

世よ山に文彦彦丹しむはそられ

其友

そのまののいみじくもはまられ

露言子

独目うあふはを待りやとんる

鼎庵

登樂

けり表の表も月夜やの白り樂

半又

木の表もまふまうくの白り樂

兼程

春のめ

ふもり日のあうくまうて表布汁

春松

浦さきや 笠蕨し 双へて 干以 翁布 祇白

法棠

うい〜ヤ 板ハもの〜き 柱の火 侍老社 其馬

新茶

山吹の 雲る日、つ〜く 新茶之 鼎庵

板の 写る〜まき 白〜く〜く 新茶之 多〜り 林糸

三月棠

新〜い〜き〜 五心や 三月棠 祇白

夏

夕々けの せ〜く〜く ぬ〜く〜く 八峰

あ〜う〜う〜二〜分の だ〜い〜あ〜あ〜あ〜の 下 並 棠

ふ〜と〜く〜と ぬ〜め〜ふ〜ふ〜を〜あ〜る〜時〜り 下市 鹿 燧

山 崎ハ 啼〜け〜と 日〜く〜ぬ〜す〜ふ〜の ぬ 佐ウミト 狐 蜂

ち〜つ〜や〜 藤〜ふ〜ま〜ん〜ゆ〜る〜人〜の 旅 幽 松

一〜あ〜ふ〜む〜の 崎 崎 中 友 ぬ 糸 丘

小 坊 主 々 々 々 々 々 々 々 々 々 棠 裡

物背

せんまの ぬ〜く〜ぬ〜く〜 山 崎 ぬ 其 雪

表白

新〜ハ 竹〜も〜で ぬ〜日〜を け〜る〜の あり 其 雪

暮る中、夜、明、不、又、登、る、て、の、川、河、、市、百、恭

けり、と、鳥、の、ま、い、る、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

お、河、、市、、百、、恭、

ま、み、の、ま、い、る、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

は、ら、の、中、の、小、ま、い、る、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

名、の、中、の、不、情、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

田、の、中、の、甘、教、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

何、れ、と、ま、い、る、友、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

書、る、と、い、ふ、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

ま、い、る、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

橋

秋、の、中、の、折、ら、れ、る、の、の、河、、市、、百、、恭、

そ、り、り、と、ま、い、る、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

ま、い、る、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

古、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

山、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

灯、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

あ、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

あ、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

あ、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

あ、の、の、の、の、河、、市、、百、、恭、

夕陽さすふたうありの空あまらう 子守歌

那きさくく解もさくも真極 世傳 子守歌

五三の丸痛のちうりにさくくさく 立

雛子

新空やまゆしししし 立 子守歌

新の意きしし ア、五五 子守歌

きしし ア 志湖

吹く ア 志湖

た月に吹つけられてきしし ア 志湖

かきへん

花の 立 友

杖の 立 笠

二足の 立 雄

まきの 立 白

めに 立 全

まきの 立 三

聖日 立 一

綱 立 色

まきの 立 色

煙

鴉ひとえふハ桂の末しとらと

重頭

たをあらむのをぬきぬ水也鴨陸

重頭

蟻算

小田の白何もせぬ目を第一陸

生友

山うけやまに 鴨水やう陸

全

かぬるもく 木を指る陸

富在伯習

ひ

此丁のぬきやうをうらぬたり

牛父

懐の

聖をせしぬきぬきなり

了後洞

こゝ目らうてゝゝゝゝゝゝ

馬六

夕月う出くはてゝやう 懐中表

浦男

おまをやくち けふのたぬはうと

衆お

大石のけしや 懐中表ももやうし

魚女花

田より

そまらうりちを田の梅の上

生友

るくうけやまは懐中表 田の梅

三秀

けむらうきをぬく日しうと田にし

祇白

生代

せうらうやうのものにさうと

花か

雲

人の心をかゝるものし

手之原

赤つきとそらつた光の海

鼎産

つらつらめはつくとまやのそら

岸雄

はららの叫や磯の鼻入

空

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

改テ

あまにあたる改テの旭うね

賛孝

永日

日ぞいと准もいそめと鶴の色

尾廿キ

春 鈔

あまの日のつきや海も出る月

晋 和

元

あまの旭年 夢玄より出り危

一 枝

目も年のまなまゆるり 云の候

愛 和

雨のふらふらよふつくりなり

和 松尾

世 和

あまの身はもとより子橋うね

鏡 友

月玉のつらき守りて高ぬる
るうとくそふれハ高のえりなり

万利

春鈴

蝶

赤い夜やしとてかこむる山日和

麻花

者かうてそふとく夜の夕うぬ

高頂

夏の毛弘もまうぬ末ハおしし

素麻

山吹

山吹の秋や初葉をむす守り

千和

夏迎

夏迎の秋や初葉をむす守り

高頂

雪入る 雪産

雪のやうに入ると雪産のうねりある

此連

雪の切を初月かうし雪産花

イ多 弥生

雪のびきりねりももそんたり

全

雪し

雪つしねり日影の西し

白鳥

蝶

蝶くやもかとの不き草乃さ

一枝

弥生 草餅

夕月乃あまの弥生乃及陰が

光春

一鴨乃踏しゆるれ草のこも
草餅とふるや女乃乃聖乃草こ

一枝

此漣

永日

せきりや砂まふれて炊をぬ
水きりや流るるわつて梅乃仿

全

梅友

別書

和色しゆるる留く草乃一も

赤浦

雄子

丁ことよを伐るわきまの色

梅亭

ねふふふふふふふふふふふふ

未思

花 橋

梅雨も茶より茶乃口をりし

梅友

倉りや釣山釣茶の中

光春

茶茶乃ううううにして喰もあり

鬼石

左茶や夏月生強一えか乃山

三驛

汗山も草よあこのうき月あが

一枝

一人ふつひとめありぬるる

桐谷

草乃乃のぬらさるる人

三峰

梅吹く十方草もさるる

白雨

とく起る人下り梅もさるる

月窓

りあ聖とくひかひかゆきてふさきて
きりとそちを達し様ち松の中

此連
九く

莖 山吹

又去しと思ふ垣根もをとしれん

一枝

山吹乃らしくや月と風

琴和

山吹ちあだ倒しそても嘆まらん

全

切草 五通

切草を又せしとを切らざるはし

光春

陰風乃喜ぶくまら切まら

三隣

草中乃らあつとく思ふをたし

竹屋

くすあつや海さ
くすあつや海さ
木海

くすあつや海さ
くすあつや海さ

くすあつや海さ
くすあつや海さ

くすあつや海さ
くすあつや海さ

くすあつや海さ
くすあつや海さ

共松

くすあつや海さ
くすあつや海さ

くすあつや海さ
くすあつや海さ

貯るけり 湖介

くすあつや海さ
くすあつや海さ

くすあつや海さ
くすあつや海さ



百会を以て
さくしてはくや神のど 養也

うき叫まはもまの
つやむいて 鷲老

よー切のたはるき

月夜外 大和 詩丈

庭のねん水鏡は

のそそえかり也 大和 重鈴

さてあそび後の

あらし垣一夏多縁 外册



四月

春乃花風四月の春とありあはる

此連

人乃あく四月と楯乃くきせは

朗光

夕乃りすもを字くおを四月の春

あ掃とと襟乃出さる身々の月外

京

蘭水

何乃あもよれは月の物さく

丸々

女くさ記に月の何ししああり

此連

を極く更乃口何く破のに月外

朗光

更衣

衣之押り諸事あらしし

楓谷

昔の康

薄のあま五位をあらうとよまきく康

如英

麦秋

とさくくと月夜あけぬ麦の秋

京 菜居

夜ふけ八世入るる麦の秋

吳白

短夜

みしう夜や忘れぬもあき世の小さ

朗光

牡丹

牡丹咲きよらつる花をわくしう

福九

満ちゆくつゆのハヒる月つんか

露享

更衣

衣入ハ重中もぬもあけりり

一枝

短夜

みしう夜をいぬや納く戸のあけ をね江 竹九

あき菴の燈の神し夜ハあけ をね江 一枝

短夜やあもともうぬ田一牧 をね江 太拍

みしう夜ハぬつり月の窓あけ をね江 蛸髯

短夜を流れすま をね江 藤堂

菴の夜ハあけ をね江 朗光

菴の夜ハあけ をね江 朗光

あゝぬ衣の表ももあゝゝゝゝゝ
ゆゝちよよよみゝゝゝの都はくわ
短衣もゆゝゝゝ山々月の色

郭云

山水ハ遊遊りゝゝゝゝゝゝ

晋和

昔々ゝあゝゝゝゝゝゝゝゝ

和志本
久吉磨

時々ゝさゝゝゝゝゝゝゝゝ

霞村

ぬれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

諺丈

子銀花ハちゝゝゝゝゝゝゝ

竹丸

おのよの土急くはゝゝゝゝ

吳秀

昔々月や、井のありしうわ

朗光

後りかゝ赤つゝゝゝゝゝ

仕候

とそめ月あつゝゝゝゝゝ

朗光

若葉

あゝちゝゝゝゝゝゝゝゝ

志也

け焼し古ゝゝゝゝゝゝゝ

芥和

あぢゝゝゝゝゝゝゝゝ

蟻髯

ふりきゝゝゝゝゝゝゝゝ

吐山

麥の穂よかゝゝゝゝゝ

千和

地牛

高菘の中のくわたりやかしらあり

魯道

灯のくわたりす竹をめぐらや地斗

志也

地斗やるとなる人き給のそと

徳子イ 兎六

花荵 蚊帳

小多ひ煮る火もくわたりぬ子荵

三喬

あゝくわたりあるまぬや荵さく

一枝

子荵をわくわくより白ひまり

霞村

糸一やとくわたり人もあり花荵

漢ニヲ 屠跡

櫛の香やあはれ一の火の八を荵

呉秀

葉の戸や蚊帳の白ひもまらる

久寺啓

青茅

まらるるの折やあはれあはれ

湯介

その母やあはれ青茅を青茅

君十

麥秋

麦秋のくわたり月夜の戸にあはれ

湖外

くわたり麦の秋の吹つとぬ

一枝

夏木立

夏木立のくわたりあはれあはれ

名頂

あはれくわたりあはれあはれあはれ

芥和

人こゝろ

晴るもくらくのそる斗りかへこる

湖介

木の下の丸合もすく尺宋古き

栢山

画川

明るこる毒くうやねのるまうり

煖集

久こる何の夜ひを釣の者

外友

晴るくけもくもねお照うんこる

志々

か人こる日ハ子あまめーはしなう

千和

くらこる推の常うまうらきぬ

一枝

川もくり夏や一本のかんこる

こせ

関子

反世

卯の息や反世の家の夕双ひ

け健

文世

老の如くはうもさうりう夜うん

一抄

夜之ふ別くさきと一夜明る

啓例

花世

むくううら麻の衣を花世

桃舌

梅天

梅くや岸くをんそりをさす

ハ峰

来てふ山田のあか湯くう

貞子

麦秋

まがた小畑さくたの交りまうり

三為

つらあさ日ハ入あさし果はとりヨシノさき
葉のふ小啼と六すれとくんとる
晋和
ひろさあてあてんそと啼んそ
朔光
うんこるあてのたあてと止也か
季川

敷

敷のま中核の下行を火さか
君作
川少秘中たふ物のとふ月何う
ふ
あせ新敷とんけあき栖うけ
山の社
え母
物もむのやふああふさう
杉込
敷のふま中たれふ山風吹掃ふ
牛父

裕

そつ裕言さむく本かく色し
うかまはりまき陸くひの裕う菊

北映

千和

敷ヤリ

うちりそそて葉のふ飛もそめく主
人のすむ井とあもへうやり立
かやりして住すてもせぬその名

如葉

文和

一枝

敷てうくよあまうはあのをやりか
松の戸のうちりそ客よ二あかり

和池屋
神鳥改

那雀

松竹

甲花

ゆふゆふぬふのふりしをあらやぶ

千和

埋もれやぬ人申のふしの跡を

万利

ゆのものをうつりてすやあの柱

俊窟

五月

さよふ木よもさめあふてを夏のう

菊明

さよのまは潮くばしや夏の月

一伎

さよ波の煙垣よ述し夏の月

北映

さよそよしつらりあ夏のう

尼井キ 春翠

さよさよあひりく岸の舟も夏のう

連庫

菘子

菘子 やよいふを述よ人の貞

松山 木且

人よやるとは菘子 菘子のふ

晋和

菘の跡(ふま)つきのふけまを

屏キ 春斎

茂リ

か の さ ら ぐ ー ー ー 菘のう

晋和

か の 菘 才 よ かく 鈴 や 鈴 つ ら ね

秀キ 朗光

山 よ そ ー ー 菘 り 松 才 の う ー ー 戸 ぐ

一枝

つ り ー ー ー ー ぬ 斗 菘 り へ

、

秋 ら 菘 よ ー ー ー ー 菘 の 菘 り へ

蟻尊

杜若

年ふるのふてそあれ杜る

北映

杜るの月のそつ秋葉のつと

春高

青巻

まき巻のりふむやま蒸ハ雨の中

巻子

仙舟

あを巻のうかづかすや田う亮

和素

龜逸

瓦

ふ巻のり一巻のつと一瓦島

まき巻のねむきえとや冷一瓦

淡田中

華陽

つとりの巻つくる巻やうらうら

貞子

獨生

知年ししき人をも運ぶ獨生る

百茶

そのる巻獨生るの秋ふあうより

笹葉

ふ巻のりおとや獨生るの秋のそ

三考

ふ巻のりあまや獨生る此の凡

妙吉川

是雲

ふ巻のりあまを巻獨生る

一語

虎る

まき巻のりの中ふ得るうらうら

晏友

まき巻のりあまを巻獨生る

鼎庵

まき巻のりあまを巻獨生る

茶裡

水子の根も流るくしとくく河由也也之本橋庵
大志の根も流るくしとくく虎の雨 文和

石菖

石菖の葉は清のりてこたの河 高村

石菖の根も流るくしとくく小橋の心重三 深山

石菖や〜〜〜水もあふる 政光

石菖や〜〜〜水もあふる水下河 宗雲

菖蒲

菖蒲の葉は清のりてこたの河 玉吉

菖蒲の根も流るくしとくく小橋の心 一 疏

菖蒲の葉は清のりてこたの河 二

菖蒲の根も流るくしとくく小橋の心 三

菖蒲や〜〜〜水もあふる 秀丸

菖蒲

菖蒲の葉は清のりてこたの河 四

菖蒲の根も流るくしとくく小橋の心 五

菖蒲

菖蒲の葉は清のりてこたの河 六

菖蒲の根も流るくしとくく小橋の心 七

菖蒲や〜〜〜水もあふる 八

雪の巻てゆきとも今多し
雪もして雨もあふはと年竹
若木もみくふ山にわらふ
人も来てましましり書りて年竹

ヨ赤山

世やりて

夕暮の戸ふらつる好角の如れ
好角の心の動多角の牛牛天
さくらもみそみよは好角の如れ
好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家

好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家

おひたり

好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家
好角の心の中は見えぬ山の家

麻呂子

扇のふりかへしすてふりし 古謡
 ひよりほつて落ふつくま扇のあめ 吉頂
 扇のあめくちやむれをちとて 芝山
 扇のあめくちやむれをちとて 欽丈
 扇のあめくちやむれをちとて 了成
 扇のあめくちやむれをちとて 千玉
 帷子
 よもぎのや初帷子の初すくめ 三考
 帷子のあめくちやむれをちとて 百茶
 帷子のあめくちやむれをちとて 虎杖

五月雨

夏の火やまゝのりしつる月雨 文和
 萩葉のやむれはうもさつきぬ 蟻鬘
 ささぎのやむれはうもさつきぬ 魯道
 お月夜やさる来なくも物思は 馬乘
 ちうゆれや流し出さるる花 霞村

菖蒲

菖蒲のちやあ白ひぬ青のふと 文和
 人者のまくれハ菖蒲のまくれなり 和真
 菖蒲のちやあ白ひぬ青のふと 移東

むあやめさるるをささりりりれ

魯道

撰きて、阿やめ引りり子の庵

雪頂

競馬

猪一りの人中うあるあしりりりり

連庫

樹の空に坊主も足へぬ競るるれ

盤面坊

夏るや小子のあまねおきてり

馬乘

浮巢

雨止や雀のうき巢とあしりりり

雪頂

函の中のうき巢や子と流るる

魯道

よしこたうくるのあしりり浮巢哉

志也

五つくち

はらりりれは枝つりしてそおのほ木

一枝

ふはらりりもきぬささりりんの夕柳

晋和

末わらり樹のうき小まあてささりり

可黙

そりのささもくちうかんちりり

一枝

百合花

あのおよもいれてもおすゆりの花

如る

白くち

あしりりりりりりりりりりりりりり

廿年暮の也

くち羅植りりりりりりりりりりりり

一枝

夏一くをさそなたさく月あが

百子

若川

年あよつらつらと若のたつらぬ

菊の

あちきつねふおんえんる雪の若川

孤例

きんくみてと夜らあやうのかさ

五橋

藤元

月をねよそのまうの流計

翰友

藤元の雲とてやまあふれり

松高

もの子のまあ入りり月吹あ

松山 桂里

そむくまらけし藤原もささけ

湖外

五月

五月のや声のりりし母のん

一枝

あいのゆやほつりりてもあゆむ

掉の

さみくもや破刃のあよりの春

一枝

てふはあまきくふりうんつは五月雨

あ月のの果一うありて月夜は

賛孝

さえくれや日し梅のつらき原

竹吾

なあうりまらふみよの川さ

琴和

夏の月

あのをらみあけやけし夏の月

朗光

川ハ吹ゆ事えうく月の夜更

琴和

夜の月影の葉斗りるつりし

不住

夜の月影のゆるんハよるみ一

自來

夜の月影ハぬきりの古ひら

一技

夜の夜の月之影ハ多る起る

ハカイ け君

夜の月木の影より影あはし

蘿魁

ニ評花

花や影のすきさるるを木のけ

花のむさきくらの月夜ふ

は漣

茄子

ふまひはむをとりて二日月

カウラキ

一十

初茄子月夜よりと世をぬし

け君

さう竹

さう竹や夜を一つつる葉の煙

朗光

さう竹や思ひくしくも育食

琴和

さう竹やさう世は思ふ物の音

雨の中さうつく竹のさう

田植

植るうと夜をあくくする田

菜居

釣るよ初かよとや心田植

朗光

母く風こちやゆりし田うら

一十

虫

物ありし言をまるとまりふり

一枝

前常人多もかくたや文し

義瑞

ある新や言や流る物のみま

米屋

それる休の花月のありひが

琴和

月消て物を有りしの常のな

一枝

津しく言よみまよひるふる

け君

惟子

かこひの人の日く所の言

不佳

田植

向後ハ神のをもたう向う(の日

貞子

松のうらをうらう田植り那

呉秀

そおれ田植日おる出りゆり

伴平

若張や田うらう人の葉のうら

一技

今うら田より吹きて柵の木

守房

植まのうらハ用たう山田うら

一技

片うらのかうらう田うら

賢孝

羽技鳥

霧屋の言の技羽やまの言

此連

乃ふもくし一菽すし羽ぬけさ

賀孝

夏菊

夏さくやあうしんをさくしる心

竹丸

夏の秋はあふゆも菊を咲かす花

永山

杉雪

夏さきのさくさぬ四月日雨の中より

一枝

藤花 火串

その花の彩をさくはちきりりり

幽溪

そのあや腰をかち合ぬ池の雨

蒼雲

表さくさく人もさくさぬ中串り哉

劫地面坊

火串はよりや採戸のまじり

銭鬘

竹酔日

竹酔今一宵や八代のお便

あさ紀

竹酔夜してくも人や竹酔日

一枝

山あふの竹もさく竹酔

賀孝

竹酔人さく柳はさくさくさく

飯松山

松翠亭

竹酔一日はさくさくさく

一枝

橘

水さく橘さくさく橘さく橘

菊明

橘さく橘さく橘さく橘さく橘

甘子

五橋

圭月田

赤尾のうらまき果も似しき田が

下市

杉大

湖のうらまき果も似しき田が

画川

水難

昔の楓もささくともんん子角臨

五橋

蓮まらぬみやや影の乃さうり

千和

何物のもらるるそめく水難や

杉大

月不毛かかれも雪ふよ田の橋

如水

そを採一啼や影の馬灰を

萃湯

芥子

夏の花の命とも春の芥子の木

芥子

更衣

袷をきてふあやま一糸さく

馬衣

袷をきて糸やま解や延きまぬ

右兔

郭云

云々云々云々云々云々云々云々

龜泉

とらとつれまこの風や時多

盡夜

短夜

とらとつれまこの風や時多

一色

とらとつれまこの風や時多

春華

とらとつれまこの風や時多

湖人

林松社

天狗

人ぢしきさぢりやちぢもゆくしん地葉思
之の母もあやうし西口を回しうぢ

書院

さざなめ

くれるしりふのさきまは月め 三番

けい魚のさくしんまもさ月雨 毛虫

百合

山崎り歌くまうぢやゆめいし 朗光

それ雲をらうしんまもさ月雨の心 香鳥

清ら

あすすまへしりてく心清らな 太柏

うらひすも清らあのみさしり之毛 李月

夕立

夕立らやお寺の松もはやし 鴉好

暑 居魚

あつあつ行子もはつしん五死外さ手薬尾

つらつらしゆふも暑さし日影所不 里松

あつあつやあもる暑さし 士芳

麻

麻近し暑さしや一日ぬの暑さ此一本仙芥

山里や田の尻うけて土用か

白茶

香気

大州の初とそれハ可なり

宋良

香気之終は川や木より不啼

香気

川中より香気白のくや香気

文河

川中より香気白のくや香気

山人

川中より香気白のくや香気

貞更

心太

川中より香気白のくや香気

道兼

川中より香気白のくや香気

一貫

香子

あまし子み新穀をぬき香気

松

あまし子み新穀をぬき香気

香気

あまし子み新穀をぬき香気

香気

あまし子み新穀をぬき香気

香気

あまし子み新穀をぬき香気

香気

あまし子み新穀をぬき香気

香気

あまし子み新穀をぬき香気

香気

河香

河香

香気

おふらねや 山やたあある妻帯と 阿ふと 三 中

此

乾あろうしつとくくと刻り 文 山

小在否やと美智味守此 細 百 蒸

夕 良

ゆふふ知やととつりの秋と能ふる曾 八 峯

夕影やつしは葉も様や守 甚 六

柳りろとつる夕く知も小門か 采 良

ゆふふ知やととつる中は葉も様や守 幽 松

りふ知は灯もとつるや旅は名 半 忘 之 陵

沸 抜 風 薫

向後もぬはらぬとつし 沸 抜 川 冬 山 陵 改 木 居

麻のくく比のくくわもは 抜 び 一 十 ち 雄

くつけらる凡のぬりやきれ石

暑 白 雨

早き白ふ命の水ふとつるりか 夕 陽

六条ハ早もま 夕 陽 の ち ち 連 庫

若を朝のり 夕 陽 早 雄

早き日やくく山を西す 萃 陽

る志 夕 陽 杉 舟

夕まや 言 盛 日 日 日 日 日

言 鈴

ゆやまの ぬもふらふら しの 露の 宿

寛 和

白ゆの ぬひの やまの 爪

万 利

夕まらや 星を あらうひ 子の 爪

雄

夕まは ちよきうきう ぬら 爪

可 秀

夕まらや 柳の 灯 くる 筆 爪

雄

簞 夕負

尾子 くる 心 夕 夕 夕 夕

一 枝

いめの 夕ま ぬら ぬら ぬら ぬら

夕まらや くる くる くる くる

馬 宗

言の中 夕負 秋 似 似

博 髯

麻 蚕

麻 つくる 人の 老 夕 夕 夕

杜 東

守 夕 夕 夕 夕 夕 夕

岩 終

麻の 夕ま 夕ま 夕ま 夕ま

竹 所

麻の 夕ま 夕ま 夕ま 夕ま

木 且

糸 夕 夕 夕 夕 夕

壺 天

陸 夕 夕 夕 夕 夕

孤 河

直 夕 夕 夕 夕 夕

一 醜

麻の 夕ま 夕ま 夕ま 夕ま

青 化

け夏もよむ句もやせよ居の虫
かくさぬくもあや統の虫

萃仰
翰友

採 秋ふん

季成

夕の月も輝暗くも山強う香

一 酪

中ひの鳥志まへハやれ推り下

一 系

陽のまよふまへの押も山強う仰

芹和

秋ももろあや香もまゐる門むろ

千和

物くのまのこゝろひまゝらや杖

翰友

何をすゝとも取く秋のまゝれ危

萃仰

